

イボ治療に超音波手術器

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

手や足などに行き渡るイボの治療に、県立中央病院は全国的にも珍しいという超音波手術器を導入している。同病院でも一般的な液体窒素による凍結療法を行っているが、この治療で効果がみられない人のみが対象。痛みが少なく、短時間で治療できるメリットがある。

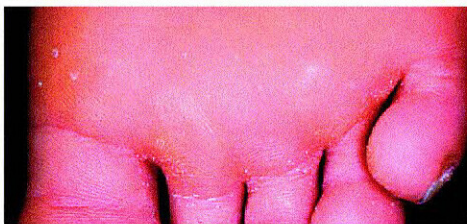
皮膚科科長の長田厚医師によると、イボは皮膚から盛り上がった小さなできものを指し、さまざまな皮膚病が含まれる。このうち、超音波手術器で治療が行われるのは、もともと普通のイボというウイルス性のイボ。正式には「尋常性疣贅」という。尋常性疣贅はヒトパピローマウイルスに感染して発症し、多くは手足の表皮にできる。たこのうおのめに似ているが、表面が



厚 長田
皮膚科科長

痛み少なく難治性に効果

《 69 》



足裏にできたイボ(写真上)を超音波手術器で削り取った直後(同中)。2カ月後(同下)にはきれいな皮膚に戻った

ザラザラしているのが特徴だ。治療法は、液体窒素を綿棒に含ませて患部を凍傷させる凍結療法が一般的でほとんどは完治するが、強い痛みを伴い、また一部の患者で治療が長期にわたることがあり、患者の肉体的、精神的負担が課題だった。同病院は2000年ごろから、これまで肝臓がんや脳腫瘍などの治療に用いられてきた超音波手術器を、尋常性疣贅の治療にも導入。同手術器は、神経や血管など線維成分が豊富な部分は傷つけない特性があるため、「線維成分が豊富な真皮を傷つけず、感染を起こした表皮のみを治療できる」と長田医師は有用性を説明する。

治療時間は一つのイボに対し約10分。外来で治療でき、翌日からほぼ普通に日常生活を送ることができる。麻酔を使うため痛みが少なく、1カ月ほどできれいな皮膚に戻る。約3割に再発がみられるが、その際は凍結療法で改善が期待でき、ほぼ完治するという。

「たこやうおのめ」と思い、市販薬を使って自己流で治療していると、ウイルスが増殖して悪化することもある」と長田医師。「命に関わるような重篤な病気ではないが、イボの数が増えたり、人に感染したりする」として早期治療を呼びかけている。

第1、3木曜日に掲載します